UKIDA Monthly　2020.8月

暮らしのネタ　暑中見舞い申し上げます

　早いものでお盆の時期になりましたね。
ところで、この時期のあいさつや贈り物の際によく、
「暑中見舞い」という言葉が使われますが、
実際いつからいつまでが正しいのかご存知ですか?

　諸説あるそうですが、二十四節季の小暑（7月7日頃）から立秋（8月7日頃）までだそうです。そもそも暑中見舞いとは「夏の暑さが厳しい時期の安否伺い」ですので、梅雨が明けて夏らしくなったころから出すのがよいとされています。ただし、梅雨は通常西から順に明けていきますので、自分の住んでいる地域で梅雨が明けても相手先はまだ、ということもありますのでご注意ください。

　そして立秋を過ぎてた場合は「残暑見舞い」に切り替えるそうです。
贈り物の時期は8月末まで送るが通例だそうです。
いくら暑いからと言っても暦の上では秋なので「暑中」と「残暑」は区別する必要があるようですね。ということで、この案内が届くころのご挨拶は、
正確には「残暑見舞い申し上げます」となります。
まだまだ暑い日が続きますが、どうぞお体にはお気をつけて。

小田中展示場より

　昨年生まれた待望の長女がもうすぐ一歳になります。
初めての子育てで毎日バタバタとしていますが、すくすく育ってくれて
とてもうれしく思います。子育てを始めたことで、私自身の間取りの提案も
少し変わってきたように思います。より子育て目線での住まいづくりをサポート
出来ますように、これからも頑張ります!

眼鏡＆天パがトレードマークの豆原より

before

after

子どもって一年ですごいデカくなるんですね!　（笑）